

# 博士課程前期

## 1 募集専修科目と担当者及び授業内容の概要

		主 要 科 目			
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授 業 内 容
経済史学	経済史Ⅰ（東洋）	経済史Ⅰ（東洋）講義A	2	教授 瀬戸林政孝	本講義では、近年、研究上、目覚ましい進展を遂げている近代アジアの経済史について最新の実証研究の成果をもとに講述し、18世紀から20世紀前半における東アジア・東南アジアを中心とした社会経済史の把握を目的とする。 演習では、参加者の興味・関心のある分野を重視しながら近代アジア史関連のテキストを輪読し、解説とディスカッションを行う。 講義、演習ともに経済史に関する基本的事実関係について習得していることが望ましいが、適宜、解説を行うので他分野の参加者も歓迎する。この点について心もとない参加者は学部3・4年生対象の「東洋経済史」の受講をお勧めする。
		経済史Ⅰ（東洋）講義B	2		
		経済史Ⅰ（東洋）演習	8		
	経済史Ⅱ（西洋）	経済史Ⅱ（西洋）講義A	2	講師 博士（経済学） 西村道也	経済史は、経済問題を歴史的に考える分野です。人類は、生存するために、生産や分配に代表される経済問題に取り組んできました。経済問題を解決する方法としては、伝統・命令・市場という三つの類型が歴史上存在するといわれています。これら三つの類型がどのように現れるのかは、時間と空間によって異なります。 我々が生きている現代は、市場が優勢な世界だと考えられています。その源流は、世界に先駆けて産業革命を経て工業化した西洋、特に西ヨーロッパであると考えられています。西洋経済史について思索する時間を持つことは、現代経済を考える上で意義のあることだといえるでしょう。 講義では、西洋経済史についての導入的なテキストを講読します。その際には、毎回担当を決めて、テキストの内容を要約した報告をしてもらい、教員が解説を行います。演習では、参加者の関心に配慮しながら、西洋経済史の担当者として、修士論文執筆の指導を行います。
		経済史Ⅱ（西洋）講義B	2		
		経済史Ⅱ（西洋）演習	8		
	経済史Ⅲ（日本）	経済史Ⅲ（日本）講義A	2	准教授 博士（経済学） 村松 怜	どのように日本の経済が成長してきたのか、どのように日本の産業が発展してきたのか、その時々どのような経済政策がとられてきたのか、人々の生活はどのように変化してきたのか、といった様々な観点から日本経済の歴史について専門的に学ぶことがこの授業の目的です。加えて、論文等で使用される資料についても目を配り、資料収集の方法や資料の利用方法などに関する基礎についても学びます。 日本経済史に関する学術論文を読み、専門的な学びをさらに深めると同時に、資料収集の方法・資料の使い方などを含めた、歴史研究で論文を執筆するための方法についても学びます。参加者は各自関心のあるテーマについて研究サーベイ、歴史資料のサーベイを行うなど研究を進めます。それらを通じて、実証的な論文を執筆することを最終的な目標とします。
		経済史Ⅲ（日本）講義B	2		
		経済史Ⅲ（日本）演習	8		
	社会思想史	社会思想史講義A	2	准教授 博士（経済学） 武井敬亮	社会思想史の授業は、近代社会を支える重要な概念・考え方がどのようにして生まれてきたのかを歴史的な文脈の中で把握することによって、近代社会の成立プロセスを理解することを目的としています。近代社会成立のメルクマールとして、政治的自由、宗教的自由、経済的自由の確立が挙げられます。社会思想史講義Aでは、17世紀のイギリスを中心に、宗教改革、内乱、革命を経て、政治的自由と宗教的自由がどのようにして確立されたのかを概観します。社会思想史講義Bでは、経済的繁栄をもたらす新たな問題に直面した18世紀のイギリスを中心に、政治的自由と経済的自由がどのようにして確立されたのかを概観します。 演習では、より専門的なトレーニングを行います。具体的には、17-18世紀イギリスの思想家の著作を中心に一次文献の精読を行い、資料分析の方法や思想史研究の進め方について指導を行います。併せて、資料調査やデータベースの活用方法についても学んでいきます。
		社会思想史講義B	2		
		社会思想史演習	8		
理論経済学	ミクロ経済学	ミクロ経済学講義A	2	准教授 赤羽根靖雅	ミクロ経済学の応用モデルを開発する力を培うことを目指す。そのために、消費者、企業などの経済主体の目的関数や制約式の性質について学ぶ。また、情報の経済学のモデルを理解することに努める。目的関数や制約式を学ぶのは、理論モデルの構造を理解し、結論を正しく把握するために必要だからである。また、応用ミクロ経済学を分析していく上で情報の問題は重要だから、情報の経済学の理解は応用モデルを開発する基礎として必要である。 上記の目的を達成するために、具体的な題材として企業金融や企業組織を選ぶ。数理的モデルとしては比較的単純だから、情報が経済活動にどのような影響を与えるのかを理解し、制約条件と結論の因果関係について学ぶのに適しているからである。
		ミクロ経済学講義B	2		
		ミクロ経済学演習	8		
国際貿易理論	国際貿易理論	国際貿易理論講義A	2	教授 Ph. D. 井手豊也	この講義では、まず、貿易理論の基礎となるヘクシャー・オリー・モデルを、簡単な数式を用いて解析してゆく。 これは、ミクロ理論における一般均衡の分析手法を貿易理論に取り入れたものである。その内容は、図と簡単な数式を用いながら、ヘクシャー・オリー・モデルにおける主たる定理である比較優位の決定、所得の再配分（ストルパー・サミュエルソンの定理）、成長問題（リプシンスキーの定理）、貿易政策（関税、数量制限等）の効果を分析してゆく。次に、上記のモデルに、規模の経済性を取り入れたモデルを、同じように解析してゆく。ここでは、調整メカニズムが必要になるため、これについても論じてゆく予定である。 この演習では、まず、貿易理論の分析に必要な、ミクロ理論の復習から入り、これらの分析力を、Jones氏の論文（英文）を読み理解する事によって、養ってもらいたい。論文の数は、進む速度で調整して行く。
		国際貿易理論講義B	2		
		国際貿易理論演習	8		

主 要 科 目					
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授 業 内 容
理 論 經 済 学	理論経済学	理論経済学講義A	2	教授 Ph. D. 渡 遣 淳 一	専門の論文を読めるだけの英語力と数学および経済学の素養を付けるため、下記のテキスト、あるいはこれらと同等のものを用いて、ミクロ経済学やゲーム理論の基礎を講義します。 [1] では Individual and Social Choice, The Price Mechanism, Noncooperative Game Theory, Topics of Information Economics など、 [2] では The core, Stable Sets, the Bargaining Set, and the Sharpley Valueなどを考えています。 [1] K reps, David M. 1990. A Course in Microeconomic Theory. Princeton University Press. [2] Osborne, Martin J., and Ariel Rubinstein 1994. A Course in Game Theory. The MIT Press.
		理論経済学講義B	2		
		理論経済学演習	8		
	ゲーム理論	ゲーム理論講義A	2	教授 博士(経済学) 西 原 宏	この講義では、非協力ゲーム理論の基本概念とその応用について解説します。各概念の解説の後、問題演習によって理解を明確にします。さらに応用例を紹介して、ゲーム的状况をモデル化し分析する方法について解説します。  この演習では、非協力ゲーム理論を用いて経済問題を分析し修士論文を作成します。前半では、文献を精読し、セミナー形式で発表することを行います。これを通して、問題の立て方、モデル化の仕方、分析方法を習得し、さらに研究テーマを決定します。後半では、モデルの分析と分析結果の意味づけ、論文作成を行います。
		ゲーム理論講義B	2		
		ゲーム理論演習	8		
	協力ゲーム理論	協力ゲーム理論講義A	2	教授 博士(経済学) 近 郷 匠	この講義・演習では協力ゲーム理論の基礎を学習します。協力ゲーム理論とは、複数の人々の間での提携行動を分析するための数学理論です。政党・派閥・会派の結成、企業間合併や業務提携、新入社員の部署への配属、あるいはサークルへの入会など、我々の身の回りで人々(あるいは会社など)がグループを形成する例を挙げればきりがありません。こういったグループの形成行動を分析し、例えば議会における各政党の影響力を評価したり、共同プロジェクトでの公平な利潤分配ルールを決定したり、あるいは自治体が地域の子供それぞれの希望に基づいて、地域のどの公立学校に入学させるか決める制度を設計したりする際に、協力ゲーム理論は有益な示唆を与えてくれます。これらの中でも特に、公立学校の入学先決定にも応用される「2部マッチング理論」を中心に、その基礎を理解することを目指します。
		協力ゲーム理論講義B	2		
		協力ゲーム理論特習演習	8		
	経済数学	経済数学講義A	2	教授 Ph. D. 藤 本 浩 明	経済数学は、経済学の一分野ではない。慎重に単純化したモデルを用いて、複雑な経済現象の因果関係を分析し、その中に潜む法則を見出すための科学的方法のひとつである。ここで、科学的とは、広辞苑によると、体系的であり、経験的に実証可能な知識のことを言う。もちろん、経済モデルが数学的である必要はないが、数学的であれば、モデルは変数とパラメータからなる方程式で表現されるため、適切な計算をすることで、科学的な結論を得ることができる。そこで、本講義ならびに演習では、例えば、チャン著「現代経済学の数学基礎(第4版)」CAP社の教科書などを通じて、科学的方法を学ぶとともに、最適な税制ならびに所得格差の不平等尺度およびリスク管理に応用することを考える。
		経済数学講義B	2		
		経済数学演習	8		
	社会的選択理論	社会的選択理論講義A	2	教授 博士(経済学) 佐 藤 伸	本講義・演習では、社会的選択理論の基礎を学習します。複数の意見、好み、判断を何らかの方法で集計することを社会的選択と呼び、望ましい集計方法の設計可能性を探る理論を社会的選択理論と呼びます。社会的選択理論の応用例は選挙や経済政策の決定、あるいは財の分配といったものから家族で夏休みにどこに行くかといったことまで多岐にわたります。そう考えると社会的選択の結果はわれわれの生活に大きくかかわっていることが分かります。したがって、「正しい」方法にしたがって社会的な選択を行うことが重要となりますが、「正しい」方法の満たすべき性質はどのようなものか、そしてそのような性質を満足するような社会的選択の方法を設計することが可能であるのかについて現在に至るまで膨大な研究がなされています。それらのうちで特に重要なものについて理解することを目指します。
		社会的選択理論講義B	2		
		社会的選択理論演習	8		
	経済学史	経済学史講義A	2	教授 博士(経済学) 山 崎 好 裕	経済学は、現代まで250年に渡って発展してきました。この講義ではその歴史を英語のテキストを通じて学んでいきます。具体的には、前期Aで、重商主義、古典派経済学、マルクス経済学、限界学派、新古典派、後期Bで、ケインズ学派、マネタリズム、新古典派マクロ経済学、実物的景気循環アプローチ、ニュー・ケインジアンという順番です。数学についても基礎から説明します。また、前期A・後期Bとも1回ずつのテストを行って、知識が定着しているか確かめます。  この演習では、前期に計量経済ソフトEViewsを使って、計量分析の手法を一通り学んでいきます。具体的には、基本的な推計法、より進んだ推計手法、最小二乗法以外の推計法、機械的予測法、単位根と共和分の問題、季節調整とフィルターの問題などを扱います。後期は、論文を読んで皆で議論しながら、各自の研究を進めていきます。1年生は自分の研究テーマを確定していくことになり、2年生は実際に修士論文を完成させていきます。
		経済学史講義B	2		
		経済学史演習	8		

分野		主 要 科 目			授 業 内 容
専修科目	授業科目	単位	担当者		
理 論 経 済 学	経済動学	経済動学講義A	2	准教授 博士(経済学) 西田圭吾	経済成長理論を学び、学術論文を読むための分析手法を身に付けることが本講義の目的です。講義の前半では、基本的な新古典派成長モデルや内生成長モデルについて取り扱います。また、それらを学習するうえで必要となる微分・差分方程式や動学的最適化についても扱います。講義の後半では、受講生の関心に合わせて、より発展的な内容について議論します。
		経済動学講義B	2		
		経済動学演習	8		
	マクロ経済学	マクロ経済学講義A	2	講師 博士(経済学) 秋本清香	本講義の目的は、マクロ経済モデルを用いた分析方法を習得し、政策や制度が経済に与える影響を分析し、理解できるようになることです。まず、代表的個人モデルや世代重複モデルといったマクロ経済モデルを学びます。そのうえで、これらのモデルを用いて、税や公債、公共サービス、公共資本、死亡率、出生率、年金システムなどが経済に与える影響を理論的に考えます。
		マクロ経済学講義B	2		
		マクロ経済学演習	8		
	応用マクロ経済学 (当該年度は募集しない)	応用マクロ経済学講義A	2	教授 Ph.D. 高瀬光夫	本講は、マクロ経済学の基本を理解し、インフレや失業などのマクロ経済現象だけでなく、経済全体に影響を与える様々な問題や政策について分析できる力を養うことを目的とします。マクロ経済モデルは一般均衡モデルの適用事例の一つとみることができ、本講では、まず、基礎的な一般均衡モデルの構造についての知識とそのモデルを使った分析手法を学び、次に、経済をさまざまな角度から捉えた一般均衡モデルの応用例を学びます。
		応用マクロ経済学講義B	2		
		応用マクロ経済学演習	8		
応用 経済学・ 経済 政策学	公共経済学	公共経済学講義A	2	教授 博士(国際公共政策) 玉田桂子	公共経済学特講講義では、学部レベルのミクロ経済学(数学も含む)を踏まえた上で理論的、実証的な側面から課税が行われたときにどのようなことが起こるかを解説する。具体的には、政府はどのように税制をデザインすべきか、税金はどのように経済行動に影響を及ぼすのか、どのような人々が税制改革により得をし、損をするのかを明らかにする。講義を通じて政策が行われるときの便益とコストのトレードオフを考えられる力を養う。
		公共経済学講義B	2		
		公共経済学演習	8		
	所得再分配論	所得再分配論講義A	2	准教授 博士(経済学) 中村由依	日本の所得格差について、その測定や評価の方法、原因となりうる教育の機能や個人の健康状態、結果として直面する貧困問題を、理論・実証研究の両方から学び多角的に日本の現状を把握しながら、将来目指すべき所得再分配の方法を議論していきます。
		所得再分配論講義B	2		
		所得再分配論演習	8		
	証券経済論	証券経済論講義A	2	教授 有岡律子	金融には、マクロ金融政策や金融システムの分析、企業の財務・会計、金融工学などといった幅広い内容が含まれる。本講義では、このうち、インベスト・ファイナンス(資産運用)、コーポレート・ファイナンス(資金調達/事業投資/キャッシュマネジメント)について、基礎的事項や理論、実務的なもの等について学んでいく。
		証券経済論講義B	2		
		証券経済論演習	8		

主 要 科 目		授 業 科 目		授 業 内 容	
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授 業 内 容
応用 経済学・ 経済政策学	米中日経済分析	米中日経済分析講義A	2	教授 博士(経済学) 万 軍 民	概要：①米中日の経済の発展過程、現状、問題点、例えば、資産バブルの生成と崩壊、金融と経済危機、長期不況、就職難、財政赤字と政府破綻危険性などをそれぞれ理解し、この三か国経済への関心をより一層深めることを目標とする。②米中日の3カ国では、特に米日において確立された金融システムが実体経済と乖離したとき、経済危機が生じる。日本の「失われた20年」および米国経済危機の生成メカニズムの本質を解き明かし、現代及び未来の世界、特に中国への教訓と対策を導く。③現在の米中間の経済問題、日中間の経済問題、そして日米間の経済問題を認識し、これらの問題の要因と解決方法などを探る。④今後の米中日の発展の行方を展望する。 計画：【I】日本：高度成長期と政府規制下における政策誘導型金融、資金配分メカニズムへの政府関与、メインバンクと系列融資・設備投資、金融の自由化とバブルの発生、バブル期とバブル崩壊後における銀行・企業・家計・政府行動、不良債権問題、財政破綻の危険性、「失われた20年」と長期低迷の原因、経済回復への途と今後の課題。【II】米国：資産バブルの生成と崩壊、米国発の世界金融危機と世界経済危機、経常収支赤字と財政赤字、基軸通貨問題。【III】中国：資産バブルの危険性、資産バブルが起こってしまった場合の対処法である硬着陸と軟着陸、金融と経済危機を未然に防止する制度設計。【IV】米中日経済：バブルや財政赤字のような共通問題の相違点と未然に防ぐ対策の制度設計、それぞれ特有の問題と対策。【V】より豊かで幸せな現代と未来の世界へ、「管子」と「社会市場経済(Socialized Marketism)」。
		米中日経済分析講義B	2		
		米中日経済分析演習	8		
	金 融 論	金 融 論 講 義 A	2	准教授 Ph.D. 野 澤 亘	New Monetarist アプローチと呼ばれる、貨幣がなぜ社会的に有用かを定めるフリクションを明示する貨幣経済学の理論について学ぶ。最初に、必要となる数学の準備を行う。続いて主要な基礎的モデルであるKiyotaki-Wrightモデル、Shi-Trejos-Wrightモデル、Lagos-Wrightモデルを学び、後半では貨幣と信用の共存しうるモデルを扱う最近の論文について講義する。分析方法と、貨幣に関する現象の説明、金融政策に対する知見を中心に講義を行う。 セミナー形式で、貨幣経済学・金融経済学に関する教科書・論文の輪読、修士論文のプロポーザル・進捗報告・研究発表を行う。
		金 融 論 講 義 B	2		
		金 融 論 演 習	8		
	財 政 学	財 政 学 講 義 A	2	准教授 博士(経済学) 山 下 耕 治	本講義・演習では、日本経済の諸問題について現状を把握し、その諸問題について、政府が果たすべき役割を議論・研究する。本講義・演習の目標は、政府行動に関して経済学的に正しい理解と評価ができるようになることにある。 日本経済の成熟化・少子高齢化・雇用形態の多様化・グローバル経済化に伴って、われわれの社会は大きな転換期に直面している。そこで、官と民の役割分担について再検討するとともに、財政が市場に及ぼす効果を議論することの重要性が一段と高まっている。 講義では、財政学の標準的な内容について、理論・制度・実態のバランスに留意しつつ、財政の在り方とその市場への効果について検討する。具体的には、ミクロ経済学とマクロ経済学の分析方法を用いることで、財政運営、国と地方の財政関係、税制改革などの在り方について議論する。演習では、上記の研究論文を輪読するとともに、政府行動に関して、計量経済学の分析手法を用いることで仮説検証を行う。
		財 政 学 講 義 B	2		
		財 政 学 演 習	8		
	労 働 経 済 学	労 働 経 済 学 講 義 A	2	准教授 Ph.D. 恩 田 正 行	労働経済学講義AとBの講義では、応用ミクロ経済学としての労働経済学を学習します。具体的には、前者で日本の労働市場、労働供給、労働需要、そして教育・訓練と人的資本などに関連する理論モデルと実証手法を学びます。後者で長期雇用の賃金決定のメカニズム、転職・就職、賃金格差、失業と不安定雇用、そして高齢者の就業と引退などに関連する理論モデルと実証手法を学びます。 労働経済学演習では、労働経済学講義AとBで学んだ理論と識別戦略を、実証研究で用います。利用できる個票記録の利用申請をし、労働経済学の実証分析の研究計画を立て、試行錯誤で回帰モデルを推定し、結果を発表し、そして報告書にまとめます。参考書、文献、そして統計ソフトウェアの取扱説明書が英語でのみ準備されているため、英語で講義を実施します。
労 働 経 済 学 講 義 B		2			
労 働 経 済 学 演 習		8			
確 率 過 程 ファイナンス 〔当該年度は 募集しない〕	確 率 過 程 ファイナンス講義A	2	教授 Ph.D. 小 島 直 樹	Since contribution by Black, Scholes and Merton, finance via stochastic process has now come to be common knowledge in economics. This course aims to introduce students to finance by way of stochastic process. Students are warned that the learning curve is quite steep.	
	確 率 過 程 ファイナンス講義B	2			
	確率過程ファイナンス演習	8			

主 要 科 目					
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授 業 内 容
応用経済学・経済政策学	環境経済学	環境経済学講義A	2	准教授 博士(経済学) 江口昌伍	講義の前半部分では、経済学の基礎である需要・供給曲線を用いて、外部不経済の存在によって市場メカニズムが有効に機能しなくなることを学びます。続けて、再生可能資源が誰でも利用可能な状況下において枯渇してしまう、いわゆるコモンズの悲劇や、環境税と補助金の効果の違い、排出量取引制度のメリットと問題点などを学び、外部不経済を内部化する手段についての理解を深めます。また、後半部分では、環境・エネルギー経済分野の実証分析でよく用いられる分析ツールである要因分解法やデータ包絡分析法などを、適宜パソコンによる演習を交えながら学んでいきます。
		環境経済学講義B	2		
		環境経済学演習	8		
	公共政策論	公共政策論講義A	2	講 師 博士(経済学) 森田薫夫	「公共政策論講義A」では、主に租税の帰着(Tax incidence)および最適課税(Optimal tax)の問題に注目し、社会的に望ましい物品税と所得税のあり方について考察する。「公共政策論講義B」では、主に租税競争(Tax competition)の問題に注目し、異なる国や地域間を資本が移動する状況下において租税が経済活動に与える影響について考察する。各講義では、それぞれの問題に関する基礎的な経済モデルを学び、理論的・実証的課題について理解を深める。
		公共政策論講義B	2		
		公共政策論演習	8		
計量経済学・統計学	計量経済学	計量経済学講義A	2	准教授 博士(経済学) 田中昌宏	This course provides insights into machine learning through the unifying lens of probabilistic modeling and Bayesian decision theory in the context of economic studies. All applicants should be familiar with multivariate calculus, linear algebra, probability theory, statistical inference, and coding in Python.  Primary Textbook: Kevin P. Murphy. Probabilistic Machine Learning: An Introduction. MIT Press. 2022. Supplementary Reading: Sergios Theodoridis. Machine Learning: A Bayesian and Optimization Perspective, Second Edition. Academic Press. 2020.
		計量経済学講義B	2		
		計量経済学演習	8		
	統計学・因果推論	統計学・因果推論講義A	2	准教授 Ph. D. 原田勝孝	規制や政策、法律、制度が政治や経済、社会に与える影響をデータから検証するために必要な計量分析およびその応用としての因果推論の方法を統計学の基礎から学びます。統計学の基礎から学ぶのは、大学院レベルの授業では、ただ統計ソフトをクリックして分析するというのではなく、自らが実行する手法や細かいオプションについてどのような過程で計算されるのか理解している必要があるためです。また、本講義ではRを用いて適宜、実習を行います。基本操作について扱う時間は無いため、受講者は予めRの基本操作について習熟していることを履修の前提とします。 演習では、講義で扱った内容の応用例として学術論文を輪読しつつ、修士論文執筆のための指導を行います。
		統計学・因果推論講義B	2		
		統計学・因果推論演習	8		

分野		主 要 科 目		授 業 内 容	
専修科目	授業科目	単位	担当者	授 業 内 容	
行動経済学・地域科学	社会経済学	社会経済学講義A	2	教授 姜 文 源	この授業において、経済学はその研究対象ではなく、研究の方法論として定義される。人々の最適化に基づく選択行為は、すべて経済学の研究対象として考える。 価格、市場、取引、貨幣などの言葉の意味する本質を考えれば、これらの言葉がより幅広く定義でき、経済学の研究対象が人間のすべての選択行為に及ぶことがわかる。 特に、この授業では以下の項目について経済学的分析を行う。: 1.差別と移民 2.犯罪、罰、権利 3.家族 4.政府と政治 5.健康、宗教、大衆的行動 <テキスト> Tommasi and lerulli "The New Economics of Human Behavior" Cambridge U. P. 1995.
		社会経済学講義B	2		
		社会経済学演習	8		社会経済学では、人類学、社会学、心理学などの他分野で得られた最新の研究成果を多く取り入れ、より現実説明力のある経済学の完成を目指している。この演習では社会経済学の研究を代表するpath breaking的論文を学生の皆さんと一緒に読むことにする。具体的には、G.Becker, Akerlof, Thalerなどの論文を中心に輪読する予定である。社会経済学の論文は、その内容が深いのはもちろん、非常に面白いものが多く、皆さんも上記の研究者の論文を読めば、経済学のおもしろさを改めて実感できると思う。受講のための予備知識として、学部レベルのミクロ経済学の理解が必要とされる。もし、受講者のミクロ経済学に関する理解が不十分な場合は、論文を輪読する前にミクロ経済学に関する講義を4、5回行うことも考えている。
	アジア経済文化相関論	アジア経済文化相関論講義A	2	教授 博士(学術) 辰 己 佳 寿 子	本講義では、「経済」を、カール・ポランニー (Karl Polanyi) のいう、経済的な制度と非経済的な制度に埋め込まれ編みこまれている「人間の経済」という広義の意味で捉え、日本を含むアジアの農村社会の社会経済的現象をどのように分析していくことが可能であるかを追求する。なかでも経済的要素と文化的要素に焦点をあて、重層的な社会(個人、家族・親族、組織、国家、国際社会等)の相関を考察していく。まず、経済人類学、社会経済学、社会的行為論や社会システム論を理解し、それらの成果と課題を明確にする。その後、経済文化相関論という新しいアプローチを用いて、アジアの農村の事例分析を行う予定である。
		アジア経済文化相関論講義B	2		
		アジア経済文化相関論演習	8		演習では、経済文化相関論を用いて、各自の研究テーマに即した実証研究を進める。社会調査(量的調査/質的調査)が必要な研究テーマの場合は、調査計画を作成し、フィールドにて調査を実施する。
	都市情報論	都市情報論講義A	2	教授 博士(工学) 五十嵐寧史	消費者の購買行動では財を認知する段階の情報が重要である。近年、個人の嗜好に合致した財の情報を提供する「リコメンデーションサービス」が実用化しつつある。莫大な情報の中から個人にとって重要な情報に絞ることは、歩行中にリアルタイムに地理的情報を提供する歩行者ナビゲーションや、ネットショッピングにとって極めて重要なサービスとなる。手法としてはキーワードによる検索、過去の購買履歴などから関心を持ちうる商品を推定する協調フィルタリング、行動ターゲットティング広告などがあるが、いずれも電子化されたデータの存在を前提とする点が制約である。この制約は特に商品点数が多いコンテンツ(書籍、アニメ、映画、音楽など)には強く効く。またコンテンツを発見する手がかりがキーワード・言語で表現しにくい場合は、既存データから検索する手法は実用的でなくなってくる。
		都市情報論講義B	2		これに対し、SNS (Social Network Service) が注目されている。社会的ネットワークをインターネット上で構築する仕組みであるが、参加者のつながり方を使ってのリコメンデーションサービスや、参加者のもつ知識を引き出す機能も期待でき、個人の嗜好にあった商品を見出す手段として有力となりうる。
		都市情報論演習	8		この講義では、インターネット上での商取引ではどんな条件が必要となるのか、各種リコメンデーションサービスの効果と限界について理解を深めた後、コンテンツ固有のリコメンデーション手法について議論する。
	都市モデル解析	都市モデル解析講義A	2	教授 博士(工学) 李 明 哲	われわれが住んでいる社会はさまざまな問題を抱えています。これらの問題を数理的に解析し、その本質を探るとともに、効率化という視点から、実際に存在している諸問題の改善あるいは解決を図るのは、社会的・経済的視点から考えて重要な意味をもっています。本特講講義では、関連文献を通じて、このような研究内容への理解を深めることにします。また、同特講演習では、そのための数理的・計算機的準備を行い、それをもとに应用モデルの構築と解析を進めて、修士論文のテーマにしていきます。
		都市モデル解析講義B	2		
		都市モデル解析演習	8		

主		要		科		目	
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授業内容		
行動経済学	都市システム解析	都市システム解析A	2	教授 博士(経済学) 梶井昌邦	本講義の目的は、都市・地域データ解析のためのモデル開発を行う基礎的能力を習得することである。本年度は、最近注目を集めている、データマイニング(data mining)の理論や、そこで用いられるアルゴリズムを学習していくこととする。データマイニングとは、数ギガ、数テラといった巨大なデータベースから、そこに潜む有益な知識やパターンを発見する技術、もしくは、データ解析手法の総称であり、統計学、人工知能、機械学習等、幅広い背景をもつ学際的な学問分野である。講義では、(1)ニューラルネットワーク、(2)決定木分析、(3)連関規則、(4)ベイジアンネットワーク、(5)遺伝的アルゴリズム、といった話題に関する基礎的文献を輪読し、都市・地域データ適用のためのアルゴリズム開発や理論的拡張の可能性を考察する。		
		都市システム解析B	2				
		都市システム解析演習	8		本演習では、データマイニング(data mining)の諸分野の中から受講生が関心ある分野をいくつか取り上げ、最新の研究の流れを展望するとともに、実際の消費者行動データや小売関連データへの手法の適用を行う。このため、初歩的なプログラミング能力を備えていることを前提とする。		
地域科学	地域経営論 (当該年度は募集しない)	地域経営論講義A	2	教授 木下敏之	「地域経営」は、その地域の行政組織の運営にとどまらず、その地域の企業や農林漁業者、小規模な事業者などの経済活動の振興、それを支える道路や河川などの公共基盤の整備、教育を通じた人材育成、医療や福祉体制の整備などを含む幅広い概念です。本講義・演習では、地域経営を構成する各要素を学び、実際の地域経営を考える際の思考方法を取得することを目的としています。学生には、人口規模による地域運営の違いや、企業誘致型、農林水産業振興型、観光型などの地域経営の実例をケーススタディしてもらい、後半では、出身地など特定の自治体について、地域経営の計画及び実行のための方策を作成していただきます。		
		地域経営論講義B	2				
		地域経営論演習	8				
データサイエンス	データサイエンス	データサイエンス講義A	2	講師 博士(工学) 熊谷惇也	本講義では、QGISやRといったフリーソフトおよびオープンデータを利用して、地理情報システム(GIS)の利用や個人レベルデータ分析の実施を行い、交通の改善や環境保全の価値、人々の主観的福利の改善といった文脈でデータ分析手法の習得を目指します。統計分析手法の習得に当たっては、分析手順だけでなく、その分析手法の推定における数理的な考え方の理解を深めることも目的とします。		
		データサイエンス講義B	2				
		データサイエンス演習	8		本演習では、実際に研究トピックの考案、研究計画の提案、提案した研究トピックに関する既存研究の調査、及び調査した内容のまとめおよび共有などを行ってもらいながら、データ分析を通して研究に取り組む方法を身に付けることを目標とします。また、提案したトピックに関する分析手法の考案や選択、分析の実施、結果のまとめと解釈・考察などを、演習を通して進めてもらいます。		

主		要		科		目	
分野	専修科目	授業科目	単位	担当者	授業内容		
応用経済学・経済政策学	経済政策理論 (令和6年度は開講未定)	経済政策理論講義A	2	非常勤講師 今泉博国	環境政策に関連する内容を2つの部分に分けて講義する。まず、前半部分では環境政策の目標・手段・主体に関する議論の基礎となる厚生経済学の内容(余剰概念、市場機構とパレート効率性、外部性、社会厚生関数、補償原理)を解説したい。後半部分では現実に生起している環境問題に対し、政府や自治体がいかなる対策を講じているのか、また講ずるべきであるかを議論していきたい。加えて地域再生と環境保全に関わる最近の議論をも紹介したい。		
		経済政策理論講義B	2				
行動経済学・地域科学	社会工学 (令和6年度は開講未定)	社会工学講義A	2	非常勤講師 博士(工学) 齋藤参郎	消費者回遊行動分析に関連する話題を選択し、ゼミ形式で、教科書の購読・計算機実習を行います。本年度は、SargentのQuantEconのコースウェア、Angristの計量経済学、Pearlの統計的因果推論、私のKaiyu Studiesの中から題材を選択します。講義を通して、クラウド環境を利用したPythonプログラミングや動的計画法などの計算の方法を理解・実行できるようになる、Potential OutcomeやPropensity Scoreによる因果の計量経済学やCausal Diagramによる因果推論の考え方を理解できるようになる、分析目的を達成するため、どのような統計的モデリングとデータ分析を行うかの考え方の基礎が理解できるようになる、が目標です。 [1] Sargent TJ, Stachurski J (2022) Quantitative Economics with Python [2] Angrist JD, Pischke J-S (2009) Mostly harmless econometrics, Princeton Univ. Press [3] Pearl J, Glymour M, Jewell NP (2016) Causal inference in statistics: a primer. Wiley [4] Saito S, Yamashiro K, (eds) (2019) Advances in kaiyu studies: From shop-around movements through behavioral marketing to town equity research. Springer-Nature		
		社会工学講義B	2				
租税論 (令和6年度は開講未定)	租税論	租税論講義A	2	非常勤講師 宮本昌典	租税理論(前半部分)と租税制度(後半部分)について講義する。取り扱うテーマは以下のようものである。 前半部分: 課税の基本概念、租税の分類、租税原則、課税の公平、租税の転嫁・帰着、課税の超過負担、課税と経済的誘因、最適課税論。 後半部分: シェアプ勧告、個人所得課税、法人所得課税、消費課税、資産課税、環境保全課税、税制改革。		
		租税論講義B	2				

